

# 事業の経緯

# Classical Weaving Art

## 表装裂

HYOSO GIRE ①



MITSUMURA SUIKO SHOIN

# Classical Weaving Art

## 表装裂

HYOSO GIRE ②



光村推古書院

# Classical Weaving Art

## 表装裂

HYOSO GIRE ③



光村推古書院

1989年『表装裂①』

1990年『表装裂②』、『表装裂③』

京都表具協同組合青年会編 光村推古書院で発行。

出版に際して表装裂を1500点ほどフィルムカメラで撮影。  
書籍で使用したのは1巻あたり約200点。 3巻合計600点。



書籍の発行後は30年にわたって、活用されることなく保管されていた。

なぜ活用されなかったか。

- ・ 出版以外の用途が見つからなかった。
- ・ 再編集して出版するには1500点の図柄の再確認・整理が必要
- ・ 裂屋さんとの権利関係。

## 現状のままだとどうなるか



フィルムの劣化により、フィルムとして使用できなくなる。

目安

温度10℃以下、30～50%相対湿度 : 20年以上(目安)

温度25℃以下、30～50%相対湿度 : 10～20年程度(目安)



表具組合の保存フィルムは撮影から30年以上経過。  
劣化とは：色の退色やフィルム素材の硬化、剥離など。

フィルムに写っている貴重な資料を残すには  
データ化が必要。



・ポジフィルムをデータ化し、印刷などに対応する精度のデータを得るためするには高性能のドラム型スキャナでのスキャンングが必要。

データ化には大きな問題が。

- ・ デジタルカメラの普及により、フィルムカメラの需要が激減。
- ・ カメラ用フィルムの需要が激減。
- ・ 同時にフィルム用高性能ドラムスキャナーの需要も激減。
- ・ 2009年、2010年頃ドラム型スキャナーの製造中止が相次ぎ、現在は保守期間も終了し、部品が壊れれば直せない状態。スキャニング用のソフトもwindows 95、XPなど現状では使用に耐えられないものも多い。
- ・ 再編集・再活用するにはすべてのフィルムのデータ化が必要であるが枚数が多く、費用がかかる。



フィルムの使用期限。 2010年頃

ドラムスキャナーの実質使用期限 2020年頃

この2つの要因から考えられる、1989年に撮影したポジフィルムをデータ化できる期限は、

**2010年～2020年前後**

今回の取り組み

■ポジフィルムのデータ化

■データ化を図ることで、ホームページで組み合わせを楽しむシミュレーターなどへの活用。

今後考えられること。

■書籍化

一覧化、資料化を図り、後世に残す。